

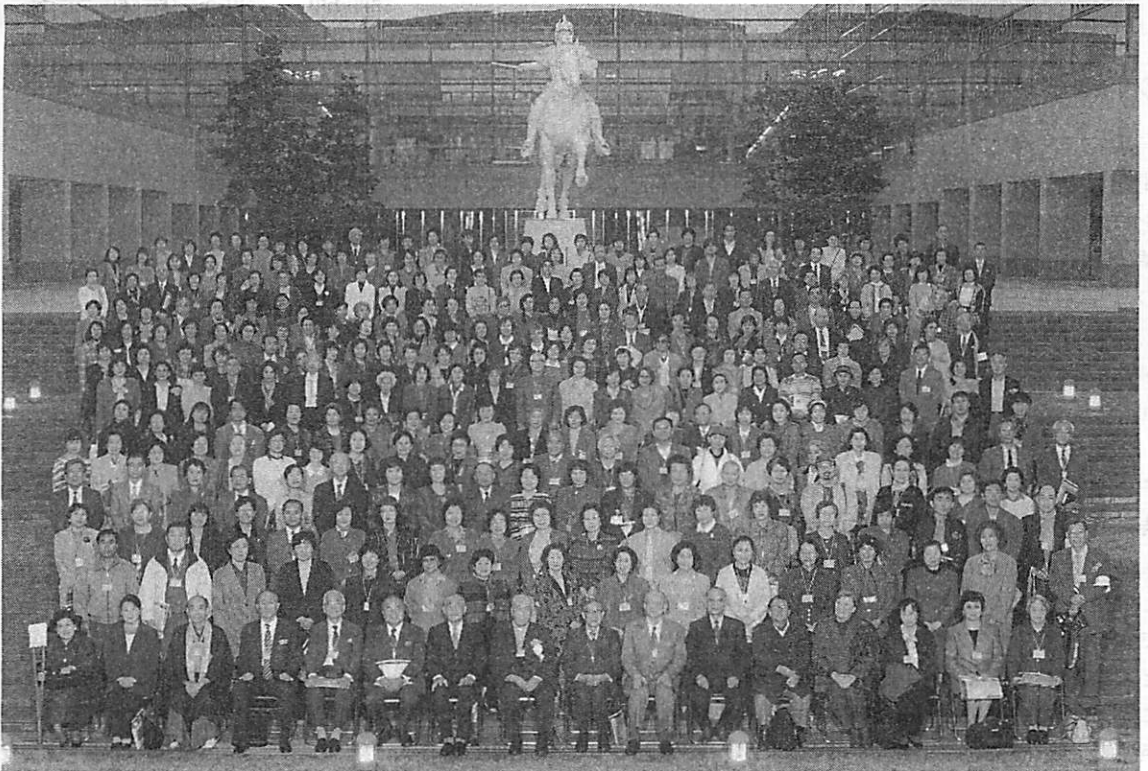


名古屋いのちの電話

全国研修会名古屋大会特集号

引き継ぐバトン ひとりひとりの力

みなおそう つくりだそう 新しいいのちの電話



第17回 いのちの電話全国研修会名古屋大会

1996年11月14日(木)~16日(土)
名古屋国際会議場

第17回 いのちの電話全国研修会名古屋大会

主催：日本いのちの電話連盟・社会福祉法人愛知いのちの電話協会

いのちの電話全国研修会は、日本いのちの電話連盟の主要活動の一つとして、1978年以来、毎年各地で相談員の研修と経験交流のために開かれています。第17回名古屋大会は、名古屋いのちの電話開局10周年を記念して、昨年11月14日～16日の3日間、名古屋国際会議場を会場にして、全国40センターから、総計513名の参加を得て、開催されました。「引き継ぐバトン ひとりひとりの力」——みなおそう つくりだそう 新しいいのちの電話——をテーマに、特別講演会、分科会、シンポジウムが、順序よく進められ、さしもの広い名古屋国際会議場がいのちの電話の熱気に包まれて、充実した3日間となりました。カナダのトロントより、自殺学の世界的権威者布施豊正教授の特別参加があり、貴重なお話を伺うことも出来ました。

名古屋いのちの電話関係者の2年間にわたる準備が各処に活かされ、天候にも恵まれて、いのちの電話の新しい前進の出発とすることが出来ました。



第1日 開会式 特別講演（一般公開）

新しい家族と家族像を求めて

（講演要旨）

講師 河合雅雄先生

◇ 家族の変化

現在、子育てとか教育の問題は非常に大きな問題になっています。その理由の一つに子どもを取り巻く環境が非常に人工化してきたことが挙げられます。そのなかで、とりわけ大きなものは「家族の人工化」ではないかと思えます。

50年ほど前の日本では、どの家庭にも子どもがたくさんいました。私は6人兄弟ですが、それくらいが普通でした。

ところが今は、核家族・少子化ということで、子どもは一人か二人になってきています。合計特殊出生率は1.43になっています。これは、一人の女性が一生に産む子どもの平均が1.43人だということなのです。これは大変な出来事なんです。どうしてこういうことになったかという、避妊をするとか中絶をするとかして人工的に制限していることは確実です。もちろんこれが悪いということではないのですが、核家族・少子化というのは人工的な色彩が強いと思うわけです。

家族というのは、人びとの心をゆったりとさ

せ、愛情を育む、そういう社会的な器です。家族がしっかりとしているかどうかというのは、子どもの成長にとっても、どの人にとっても幸福の目安になると思うんです。

◇ ヒト誕生の条件

今日、私が家族の問題を取り上げたのは私の一番の研究テーマが「家族とは何か」ということだからです。私は通称サル学者ですが関心は人間がどうして生まれて来たんだろうという事にあります。

現在わかっている範囲では、ヒトは今から500万年前、東アフリカのあたりでサルから進化したのです。サルがヒトになるためにはどういう条件が必要かといいますと、大きく分けて3つの条件が必要です。

第1の条件は身体的なもので、体を真っ直ぐにして2本足で立って歩くことです。これが非常に重要なことなのです。普通は人間は脳が大きくて、それがサルと違うとお考えの方があるかもしれませんが、4～500万年前のヒトの脳はチンパンジーぐらいなんです。ゴリラよりも

小さいのです。2本足で歩くことによって脳が発達してくるんです。

第2の条件は、社会学的なレベルで見ますと家族という集団を持つことです。

第3の条件は、文化コミュニケーションのレベルで言葉をあやつることです。

人間とは何かと言いますと、2本足で立って歩いて、家族という集団を持ち、言葉でコミュニケーションをしている、こういう高等なサルが人間なのです。

◇ 家族のゆらぎ

現在、家族像が非常にゆらいでいるといわれています。アメリカでは離婚率が非常に高くなっていますし、性的な風俗もゆらいでいます。そして、核家族・少子化が進んでいます。将来人間社会から家族という集団は崩壊してしまうのではないかという人もいます。

しかし、私たち進化史をやっているものからいいますと、これは大変なことなんです。というのは、人間という生物が存在するためには、家族という小さな集団をがっちり持っていることが必要なのです。ですから、家族というのが本当に無くなるようなことになったら、人間であることを否定することだと私は思います。

もちろん、家族像というものは社会環境や時代によって変わっていきます。けれども、家族という小さな集合体をとにかく健全なものにしていくこと、それが人間であることのためが一番重要なことだろうと思っています。

◇ 父親の条件

サルと言いましても、実は世界に180種類ぐらいいるんです。私は30年以上野生のサルたちの社会を調べました。チンパンジーもゴリラもオランウータンも、日本ザルもヒヒもいろんな社会がわかってきたんです。サルの社会も実にさまざまなんです。どれだけ調べても家族という集団を持ったサルはいないんです。

つまり、家族という集団を持つのは人間だけだということが分かってきたのです。

一つの家族ができていく条件に、非常におもしろいことがあるんです。それは父親です。父親という存在は人間社会にだけあって動物の社

会には無いんです。

みなさん、多くの方がお母さん、お父さんの方が多いと思うのですが、母親とは何だろうという、何とかお答えになれると思うんです。ところが、父親って一体何だと言われるとすぐ答えにくいのではないのでしょうか。

父親はと言うと、私はこういうふうに考えます。それは、人類ができた時の父親の条件なんです。社会によって多少は変わってきますが、基本的に、一つは自分の集団である家族を守ること。二つ目は、家族が生活するための経済的な活動をする。サルの場合は餌を採ってきてメスや子どもに与えるということです。そして三つ目は子どもの養育にあたることです。こういう三つのことをちゃんとやれるオスを私たちは父親と呼ぶのです。

サルの社会では母親は存在しますし、母子関係もはっきりと見ることができます。

父親の存在というのは交尾の時にはもちろんあります。また、自分たちのグループを守るとは確かに行うのです。しかし、自分の家族や集団を維持するために経済活動をする。つまり餌を採ってきて子どもやメスにやるということは絶対にやらないんです。そして、3番目の条件である子どもの養育についてはこれも全然やらないのです。子育ては全部母親まかせなのです。ですから、サルのオスは父親の条件のうち一つしかやっていないわけですから、サル社会では父親というものは全く存在しないのです。

◇ 日本の父親

この父親の定義を今の日本の現状に当てはめてみるとどうでしょう。

日本の父親は家族を守るとはよくやっています。2番目の経済活動はどうでしょうか。これはやりすぎるくらいやっている。むしろ無茶苦茶やっているんです。しかし、3番目の子どもの養育にあたることは大変手薄です。ですから今、非常に大事なものは家族の中に父親をきちっと取り込むこと。家族の原点に戻ることなのです。

◇ 個性化

今、学校で非常に重要なモットーとして個性

的な子どもに育てようというのがあります。しかし、同じような家庭が並べばそこで育つ子どもというのは、同じような子どもになってしまうのです。家庭の文化というものはそれぞれの家庭で違わなければいけない。そのためには、自分たちの色彩を持った家庭というものを家族全員で作っていくことが大切だと思うのです。

今、家庭では誕生日は大切にしていると思います。その他にも、昔から行われてきた七夕などの行事を積極的に家族全員で行っていくとよいと思います。親と子の対話などとやかましく言われているのですが、それ以前に基本的なものを共有することが大切なんです。

これまで、血縁関係というのは非常にながちりとしたものを持っていたのです。ところが、あつと言う間におじさんもあばさんもいともいない。血縁から孤立した子どもがグーンと増えてくる。血縁社会の崩壊が迫っているようです。それにたいして、どうしたらよいかと言うと、私は友達関係のネットワークをもっとたくさん作っていくようにする。今の若い人達はわりと上手に新しいコミュニティを作っているのではないかと思います。

◇ ニホンザルの生態 (スライドを見ながら)

ニホンザルは動物の中ではけっこう賢い動物です。こういう知能の高い動物が一緒に暮らすというのはけっこう難しいんです。ですから、その集団の中にいろんな社会的な秩序を彼らは作っています。ニホンザルの社会をまとめていく大きな柱は血縁です。お母さんと子どもたちという母子の血縁の集合が「群れ」なのです。

子どもは普通1頭で生まれます。お母さんはその子どもをしっかり抱いて育てていきます。お母さんのお腹が「巣」だといってよいでしょう。霊長類の子育ての根本というのは、お母さんと子どもが肌と肌をぴったりと接して育てていくことなのです。

時々、生まれた子どもが死んでしまうことがあります。そういうとき、お母さんは死んだ子どもをなかなか離しません。これはニホンザルだけではないんです。ヒヒでもチンパンジーでもそうなんです。これも霊長類の特徴のようです。

サルの子どもの赤ちゃんも自由に動けるようになると「赤ん坊集団」を作ります。子どもが「子どもの世界」を作っていくということ。これが非常に重要です。そこで社会性が育つわけです。

1歳ぐらいのサルになると、子どもどうしてレスリングをしたり、木から飛び下りたりします。時々「サルも木から落ちる」こともあるんですが本当です。サルですら、小さい時からちゃんと訓練して、失敗したらその失敗をちゃんと自分のものにしていくことが必要なんです。

サルの遊びにも仲間遊びと一人遊びがあります。自分一人で楽しむということも大切ですが本当によい成長をしていくためには仲間遊びが大事です。現在の日本の子どもたちは、一人遊びが過剰なんです。親たちは個室を与えますから、そこにはマンガの本が一杯あって、オーディオセットや電子的なおもちゃが一杯ある。そういう状態よくないんです。ここは子どもたちに仲間遊びの世界を取り戻すことをしなくちゃいけないんです。

◇ 母と子ども

サルの子どもの遊びが遊んで帰ってきますと、お母さんはいわゆる「ノミとり」をします。これは本当は「毛繕い」なんです。というのは、ニホンザルにもチンパンジーにもゴリラにもノミは付かないんです。霊長類でノミが付くのは人間だけなんです。ときどきノミが付く人は非常に人間的な人なので安心してください。

サルの遊びは幼年期ではオスとメスに差はありません。しかし、少年・少女期になりますと遊びの内容が変わってくるんです。少年のサルはケンカのように非常に激しい遊びを好むようになります。ところが、少女のサルはそういう乱暴な遊びはしないで、よく子守ということをするんです。メスザルは大きくなったらお母さんになるので、そのための練習をちゃんとするんです。これはニホンザルだけではなくて、サル類一般に見られる行動です。

◇ リーダーの役割

ニホンザルの群れにはリーダーがいます。リーダーは群れを安定させる役割があるんです。リーダーは野生の状態では2～3年で交代します。

リーダーというのはなかなか大変なんです。下からの突き上げがあるし、そして、その末路はどうなるかと言いますと、群れから出て行って一人ザルになるのです。そういうところはとてもさっぱりしています。こういうことは日本の政治家も見習ってほしいと思っています。

◇ コミュニケーション

チンパンジーは非常によくあいさつをするんです。おじぎもしますし、相手をポンポンと叩くとか、抱き合うとか、握手もするんです。それから、ちゃんとキスもするんです。現在人間が持っている挨拶の原型はだいたいチンパンジーの社会にあります。あいさつをすることによって、お互いのトラブルをうまく解消するとか、あるいは緊張関係を和らげるとかしているのです。

やっぱりあいさつというのは、高等な動物が暮らしていくためには絶対必要なものだと思います。ですから、子どものしつけの中であいさつなどは家庭でしっかりとしつけてほしいと思います。

最も大事なことは、私は心をつかち合うということだと思えます。痛みを共にする、悲しみを分かち合う、喜びを共にするなど私たちにとって非常に大切なことです。この心をつかち合うことはザルの社会ではまだ無理です。ですから、人間らしいことの一つとして「心をつかち合う」ことを大切にしたいと思うのです。

ご静聴ありがとうございました。

(1996年11月14日 名古屋国際会議場にて)

文責 編集部

【講師プロフィール】

1924年生まれ。京都大学理学部動物学科卒業、京都大学霊長類研究所教授、同所長、財団法人日本モンキーセンター所長、日本福祉大学教授を歴任。

生態学、人類学、特に霊長類の生態、行動、社会の研究を行っている。サルからヒトへの進化の過程に強い関心を持ち、理論的研究を行うとともに、人間の本性とは何かを問い続ける。

現在は京都大学名誉教授・日本福祉大学生涯学習センター長・兵庫県人と自然の博物館館長。

主な著書に「ニホンザルの生態」「森林がサルを生んだ」「人間の由来 上・下」などがある。



第2日 分科会

名古屋国際会議場2号館・4号館のほか全会議室を使用して、24グループに分かれた分科会による研修が15日の終日にわたり実施された。各分科会の標題は、5つの大きなテーマに分かれた。「自己理解のために(セルフ)」5グループ。「自己理解のために(コミュニケーション)」6グループ。「ライフサイクルを考える」7グループ。「かけ手の理解のために(事例研究)」2グループ。「相談員の自立を考える」3グループ。これに「組織を考える」1グループが加えられた。電話相談の理論、実践、相談員自身の課題について、講義、体験学習、ディスカッションをとりまぜ、充実した研修が続けられた。

申し分なく整備された会議場と、テーマにふさわしく選ばれた講師・指導者陣が、必要十分な準備をもって臨んで下さったことが参加者にとって、いのちの電話の相談活動に新しい意欲をかき立てるまたとない励ましとなった。

第3日 シンポジウム・閉会式

名古屋大会の最終日には、“電話は「気づき」より「依存」を深めてしまうかも知れない”とのテーマでシンポジウムが開かれました。もしかして私達は私達自身が依存を深めさせてしまうような対応をしているのではないだろうか。こんな反省から訓練委員の長瀬治之先生のお骨折りで、それぞれ違ったお立ち場のパネリスト3人に「電話」「嗜癖」「依存」をキーワードに問題提起をして頂いた後、小グループに分かれて自由に話し合っていました。

会場の雰囲気は真剣な中にも終始和やかな空気が漂い、いのちの電話に関わる仲間達の『人となり』が忍ばれるひとときでもありました。フロアとのシェアでは熱心な発言が続出し、時間の経つのが惜しまれました。全国からお集まり下さった皆様方の温かいご協力と、陰で支えて下さった名古屋の仲間たちに心より感謝申し上げます。

ここに、シンポジウムの企画に最初から意欲的に関わり、当日の進行も務めて下さった長瀬先生に総括をお願いしました。

シンポジウムは一電話は『気づき』より『依存』を深めてしまうかもしれない—というテーマで行った。ポケベル、携帯電話の普及、留守番電話、電話番号表示などの技術革新によって、電話を巡る状況が大きく変化してきている。また、中学生の自殺予告の電話によって、校内試験が中止になったり、マスコミを通じて自殺しないように教育委員会が呼びかけるなど、電話

が社会を動かす一つの道具にもなってきた。このような状況の中で、当然電話を利用する人の気持ちも変化しているが、我々は今までのやり方のまま電話相談をしていて、その変化について対応できていないのではないかという危惧がある。去年茨城で開かれた全国研修会は、「傾聴と受容」が利用者を電話依存にさせるのではないかという問題提起がなされたので、名古屋でのシンポジウムでは、それをもう少し発展させる形で電話と依存の関係を明らかにしようと考えた。そのために、シンポジストは電話相談には直接関わっていない、言わば外の人をお願いした。というのは、電話相談に直接携っている人よりは関わっていないの方が電話相談について新しい視点から語ってもらえるかもしれないと考えたためである。

メディア文化論の視点から佛教大学の富田英典先生、精神医学の視点から西山クリニックの西山仁先生、心理療法の視点から代々木心理相談室の栗原和彦先生をお願いした。



富田先生はリカちゃん電話の録音テープを会場に流して、現代人のメディア感覚を鮮やかに描き出した。電話コミュニケーションはビジュアルなもの欠落しているのではなく、音声だけの対面コミュニケーションに還元できない独特な電話の世界があり、電話コミュニケーションの世界と我々が日頃接している対面コミュニケーションの世界は、それぞれが並列した形で社会に存在しているという。電話の世界で生じていることは、匿名性と親密性と言った言わば水と油の関係が容易に結びついてしまうことである。電話でコミュニケーションをとる二人の関係は、親密な見知らぬ人（インティメイト・ストレンジャー）と呼ばれ、対面コミュニケーションからは考えられないまったく新しい形の人間関係が生まれている。そして、その見知らぬ人は実体のないイメージの世界であって、電話への依存はこのインティメイト・ストレンジャーを求めているかもしれないと言う。

西山先生には嗜癖について語ってもらった。嗜癖とは、日常生活の中で生きていくのに必要な習慣が、適切な自己調整機能を欠き、その人の利益にそぐわなくなってしまうことを言い、極端な場合その習慣を維持すること自体が行動の目的になる事もあるという。嗜癖にはアルコールや薬物以外にも、ギャンブル、仕事、食べ物、宗教、電話、人間関係といったあらゆる物が存在する。嗜癖的な人間関係というのは「頼る人・頼られる人」という二人の関係、言わば、共依存の中で成立する。頼る人は頼ることで相手との一体感を持ち一人であることの不安や寂しさや空しさから解放され、頼ることで相手を支配しコントロールすることさえできる。頼られている人も相手から頼られることで、満足を得るため、その関係の維持をお互いで図ろうとしてしまう。このように考えてくると、送り手と受け手（頼る人と頼られる人）の閉鎖的な二者関係の中で行われる電話相談は、嗜癖に陥りやすい構造を内包しているという。

栗原先生は次のような映画の一場面を想定されて、酔っ払いが電話をかけてきて話している内に、会う約束をすると途端に酔いが醒めてしまうという情景から、電話の中で成立しているであろう二者関係の持ち方を我々の目の前に提

示した。電話相談を利用する人はこの人のように対面や素面ではとても人とは会えないような、対人恐怖を持っていることを推測し、その人たちの病理として、接触を恐れる一方で、極めて暴力的に支配するサド・マゾの関係になりやすさを持っていることや、現実性を欠いた融合的な関係に陥りやすいことを指摘した。電話相談にしる継続的な相談にしる心理療法的援助は、依存と自立の中間段階にあるが、自立する前にはどうしても、一時的には依存する関係にならざるをえないため、電話を利用する人たちの病理と考え合わせると、この関係から抜けられなくなってしまう恐れが非常に強い。そのため、最初の見立てと依存から独立に向けての技法上の工夫が必要になってくるという。フロアの興味はこの点に集り、質問も集中した。

シンポジウムは三人のシンポジストの発言の後、フロアで十人くらいのグループに分かれ意見の交換をしてもらい、それから、全体でディスカッションをした。

大きな論点として感じたことは、時間にしても、内容にしても「利用者の話をどこまで聴けばいいのか」と言う質問に象徴されるような電話相談の限界である。富田先生は、電話にはメディアという世界があって、いくらそこで親密になってもそれはメディアの中の親密さであって、現実の世界に繋がることはないと言い、西山先生は電話相談の構造そのものが嗜癖を生むと言い、栗原先生は限界がないと依存から自立には変化しないだろうと言い、フロアからは電話の中に依存してしまうことも援助していく大切さを口にすることが多かった。

依存から自立へ、あるいは利用者が「気づき」への援助といった治療モデルと、電話にしか親密さが得られない人に場を提供していく癒しのモデルの二つが、バランス良く融合するような電話相談の理論が必要になってきているのかもしれない。

以上のようなディスカッションの内容は、満足のいくものであったが、一番印象に残ったのは電話相談の限界という大きな問題に真正面から取り組もうとする相談員の活気ある姿勢であった。

大会を終えて

実行委員長 西 沢 信 正

第17回いのちの電話全国研修会名古屋大会は、予定通りすべての行事を無事終了することができました。一年間にわたって相談員の皆さんが、それぞれの分担を責任をもって果たされた賜です。これまで三年に渡って資金集めから企画、役割りと総力をあげて努力した体験は、これからの相談の仕事を進める上で、大きな糧となると信じています。

いま大会プログラムを目の前にして、幾度か重ねた話し合いの過程がよみがえってきます。相談の時間を持ち、またいろいろな仕事をすませた男女会員たちが、午後8時を目途に問題点の整理をしながら、意見を交わした時間の貴さが蘇ってきます。とくに、水谷巍理事のことで

私は開会の辞で触れるのを忘れ申し訳なく思っているのですが、プログラムの表紙と裏のロゴについてです。この小さな絵のアイデアと言葉、その作者は水谷理事でした。表紙にかわいいウサギが木の枝におかれた電話を取るという図柄で、「愛の耳知のこぼれ」とバナーが下に添えてあります。社会福祉法人愛知いのちの電話協会の精神を美事に生かしています。東別院のお東幼稚園園長として、毎日、小さな子どもたちとの接触を通して、人生観に投影されている人間愛でしょうか。僧職にあって大会分科会「生と死を考える」の講師もつとめ、死と別離を身近かに受け止め、生のいとおしさを強く感じているからでしょうか。いずれにしても、小さなロゴの大きな意味を、これからも実践に生かしたいと思います。

大会場の選択も成功の一つだったといえます。名古屋デザイン博が開かれるのを機に建設された、白鳥センチュリープラザの国際会議場は、名古屋の誇る一つの施設です。正面入り口の巨大なロビーとV字型に末広がり伸びる構造には、全国からの参会者は圧倒されたようです。分科会の会場を含め、すべてゆとりのあるスペースとなったことは幸いでした。また、すぐそばの白鳥庭園、日本式庭園を見学した人たちも、

満足してくれたと聞きました。ただ、名古屋のホテルが上前津から北の広小路と名古屋駅付近に集中していることから来る不便さと、交通対策にやむを得ない不備があったことは、反省点としてあげられるでしょう。それにしても三日間、寒い日でした。地下鉄から会場への道案内と、広い会場内での案内に立ちん棒でがんばった人たちに、心から御礼を申しあげ感謝の意を表します。

木本精之助事務局長を中心に、全体会部会、生活部会、交流部会、案内部会、記録広報部会が、よく連携をとって大会を支えて下さったことにあらためて、「愛知の力」を感じます。大変な人気だったおみやげの「しほり」も、相談員のアイデアと、製造業者のボランティア精神によるものでした。

何度か東別院でフリーマーケットを開いて資金集めをしました。コンサートも開きました。この大会に向けての努力でした。その費やした時間とエネルギーは必ず、何倍にもなっているいのちの電話の活動に返ってくるでしょう。それによって、私たちはこれからの社会に、確かな安全弁と安心感を生み出せるのだと確信しています。



開局10周年記念 ギターコンサート

開局10周年記念コンサートは、昨年度プラスコンサートに引きつづき、今回はギターコンサートとして計画し、日本キリスト教団名古屋中央教会を会場に、名古屋ギタークワルテットの演奏奉仕により、開催することが出来た。

日 時 1996年11月30日(土)18:00～

会 場 日本キリスト教団名古屋中央教会

出 演 名古屋ギタークワルテット

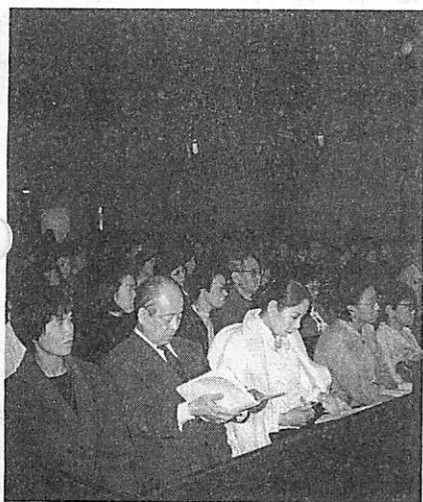
高岡 誠 クラシックギター

加藤丈晴 クラシックギター

堤 肇 クラシックギター

柴 信次 バロックリュート

長井 潤 フラメンコギター



曲 目	バッハ・プレリュード 他	J.S. バッハ
	禁じられた遊び	作者不詳
	アルハンブラの思い出	F. タレガ
	「魔笛」の主題による変奏	F. ソル
	アレグリアス	パコ・ベニーニャ
	ルンバ・フラメンカ	マリオ エクスデーロ
	「水上の音楽」より	G.F. ヘンデル
	ラ・クンパルシータ	ロドリゲス
	四重奏のためのソナタ	D. フォルテア
	メキシカンハットダンス	メキシコ民謡
	その他	

クリスマスを間近に控えた土曜日の夜、名古屋都心部に位置する名古屋中央教会を会場に、静かな落ち着いた雰囲気のためようコンサートであった。正面右側にパイプオルガンを見据えながら演奏する名古屋ギタークワルテットの面々は当地売り出し中の新進演奏家たちで、しかもいのちの電話の活動に積極的に賛同を示すボランティアミュージシャンである。親しみ深い耳なれた曲から、弦楽器の妙を奏でる難曲まで、楽しさと感動を織りまぜた2時間、いのちの電話ならではの意味深いコンサートは終わった。聴衆は250名、また32の団体及び個人より協賛広告が寄せられた。

ご援助ありがとうございます

1996年10月1日より12月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方も、お名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会

理事長 相馬 信夫
財務委員会

賛助会員 A

中野悦美	生沼克芳	太田鈴香	水野由吉
小中健次	濱島賢祐	小島洋一	山口幸男
石川頭次	小川邦泰	服部みやぶ	牧岡恒夫
飯尾てる	西村清	勝木悦子	川村敏夫
佐藤勝利	田中健次郎	片山主水	田中良子
森岡鎌子	神保尚文	西村良子	傍島茂夫
塩野高子	金澤尚強	大島恭子	加藤藤雄
加藤順子	今西尚子	須田静代	加志村一恵
森茂也	高田邦彦	佐々木武昭	澤村修徳
山田正義	北郁子	内藤弘	大矢和徳
前田正子	芝原慶次・ゆかり	出口芳己・美津江	オフィス・コア株式会社
永沢寺岡島博司	八事聖靈修道院	興徳寺佐久間敬止	

賛助会員 B

橋本茂乃	青山玄	堀田正俊	宮下真昭
堀尾勇夫	亀山千恵子	橋本良男	福田佳代子
生田純子	小野孝児	三浦一秋	五藤昭子
宮里及子	柴田和美	野村妙子	山鎌倉勝子
幾田淑彦	阿知波達仁	持田宣夫	和久部英倫
小伊藤みつ子	青木栄一	笠原善久	輕森康隆
遠山千寿子	大森正樹	岸田隆哉	森倉崎島
本田健次	直井豊		
斉藤松次郎・和江			

賛助会員 C

柏子見昌敏	山下恭子	柴田孝代	寺田弘子
榎本正子	小幡美登里	常崎佳子	細川美代子
神谷将弘	小安武夫	岡生球子	桐林真紀
小塩美陽	小川秀子	花村三智枝	加藤口勇
西高橋孝	村上賢三	相川義治	江宇谷義昭
高西尾潔	村久間貞介	鈴木中あさ子	古松田百代子
春日部道子	金子紀子	佐藤嘉孝	森藤志づを
河村公一	棚橋とく子	武嶋喜代子	佐藤周子
榎上茂枝	高金子今朝枝	宮鈴木ひろみ	林島節子
服部伸紀	内藤克子	渡辺邦俊	大西野友英・三緒子
寄付金			
橋本茂乃	中村三郎	川村敏子	中川鋪子
			岡崎和子

鈴木 拓	兒島 龍雄	高木 康秀	加藤 倫子	内川 正邦
浦下 桂子	小島 丈夫	安原 律子	鶴田 和子	生川 和子
望月 武雄	服部 みやぶ	谷口 江利子	柳澤 幸輝	祖父江 文宏
祖父江 田鶴子	小林 久徳	高須 瑞枝	太田 敦子	山口 幸男
吉田 聖	大洞 陽子	多和田 いみ子	高橋 郁子	坪井 和子
後藤 忠一	風岡 良子	初井 敦子	深津 貞	石黒 康治
菅沼 恒子	大橋 京	戸田 安士	林 周子	伊藤 恵美子
水野 享好	山下 タカ子	三田村 吉朗	中辻 三千代	鬼頭 明枝
沼野 篤代				

愛知西地区教会婦人会連合	ルーテル幼稚園父母の会	ボーイスカウト名古屋第98団	
ガールスカウト名古屋第58団	日本福音ルーテル名古屋教会	日本福音ルーテル名古屋教会教会学校	
幼き聖マリア修道会 宝泉寺	圓光山大聖寺 聖霊高等学校アニメーション部	愛宕山教会婦人会	
聖心布教姉妹会岡崎修道院	日本基督教団半田教会	カトリック蟹江教会	
1多市立看護専門学校自治会	日本基督教団愛知教会	日本キリスト改革派八事教会	
東海レディスプラザ	南山ファミリーYMCA南山幼稚園	株式会社岡田パテントサービス	
学校法人金城学院	カトリック尾西教会	日本基督教団金城教会	カトリック布池教会
カトリック平針教会	名古屋聖マタイ教会	カトリック五反城教会	聖母カテキスタ会

賛助寄付

あまロータリークラブ	東邦ガス株式会社	中部電力株式会社	名古屋鉄道株式会社
株式会社高木製作所	株式会社トヨタレンタリース名古屋	株式会社アラキ製作所	
株式会社東海通信資材サービス	理研産業株式会社	大島造園土木株式会社	
カルビー株式会社名古屋支店	中村産業株式会社	株式会社オチアイネクス	
株式会社ハルレストランサービス	株式会社丸政	岩田電算機会計事務所	
株式会社杉浦製作所	(株)三秀プレジジョン	共栄建設株式会社	株式会社竹中工務店名古屋支店
名証正会員協会	名古屋トヨベツト株式会社	大橋鉄工株式会社	株式会社山田弥太郎商店
NTT中部電話帳(株)	株式会社名古屋銀行	武田機工株式会社	日本舗道株式会社中部支店
株式会社東海銀行	株式会社ワーロン	小島プレス工業株式会社	アケボノ棺仁葬儀社
フジトランスコーポレーション	安田火災海上保険株式会社		新明工業株式会社
杉山工業株式会社	株式会社伊藤工務店	アサダ株式会社	株式会社両口屋是清
株式会社城北自動車学校	株式会社ボスカンパニー	株式会社サンゲツ	万能工業株式会社
豊田合成株式会社	株式会社中外	中部トヨタリフト株式会社	豊田通商株式会社
江金風工業株式会社	三井屋工業株式会社	フタバ産業株式会社	川北電気工業株式会社
株式会社スズケン	トヨタ自動車株式会社	岡谷工機株式会社	日本電話施設株式会社
豊田総建株式会社	中京葬儀株式会社	株式会社追屋	株式会社松坂屋
株式会社デンソー	中央精機株式会社	新日本製鐵名古屋製鐵所	水野精麦倉庫株式会社
アイシン精機株式会社	株式会社東郷製作所	豊田工機株式会社	株式会社オティックス
株式会社豊田自動織機製作所	株式会社三五	株式会社高津製作所	猪村工業株式会社
株式会社芝岡製作所	日本ガイシ株式会社	愛三工業株式会社	西枇工業株式会社
清水建設株式会社名古屋支店	アラコ株式会社	名古屋共栄証券株式会社	愛知製鋼株式会社
トヨタ車体株式会社			
クリスマス歳末募金			

河村 敏子	木本 精之助	安田 武夫	橋本 良男	秋田 あや子
豊田 江美	加藤 みゆき	五藤 昭子	児玉 光雄	三上 正子
春日部 道	野村 紘子	宮木 靖子	鈴木 敦子	小野 孝児
林 郁子	西尾 潔	末田 香里	矢満田 篤二	石田 夏江
坂東 信吾	西村 良子	飯塚 重五郎	林 温江	伊藤 美江子
栗田 美津子	竹内 宏子	中谷 聖子	佐藤 辰一	小笠原 覚
松井 くら	湯瀬 美知子	河野 登喜子	白田 治子	加藤 順子

平井 瑞子	梶原 寿	梶原 久江	梶原 直子	中野 悦美
今西 尚子	石垣 栄三	鎌手 敬一	大橋 玲子	中山 政和
伊藤 みつ子	守田 てる	真木 芳子	坂本 康信	宇佐見 夏子
梅澤 晴子	池田 亮二	長倉 久子	宮内 英夫	岡安 正広
志村 澄江	渡辺 宜親	斉藤 喜世子	見木 晴美	寺田 恵英
五十君 和子	岸 正倫	山田 久子	山田 正義	小野 孝児
神野 啓子	松岡 朱美	大島 まさ子	山下 アヤ子	吉岡 満智子
岩田 鏡一	児玉 篤尚	大矢 和徳	森部 暁子	梶浦 和由
近藤 直枝	植田 望	藤吉 康司	太田 美恵	松村 陸子
西沢 信正	斎藤松次郎・和江			

寂光院・松平寛胤	名古屋ユニオンチャーチ	日本基督教団熱田教会
日本基督教団鳴海教会婦人会	日本基督教団中京教会婦人会	聖霊奉侍布教修道女会
名古屋ワイズメンズクラブ	日本基督教団豊田教会婦人会	日本基督教団名古屋西教会
日本キリスト教会名東教会婦人会	瀬戸聖霊修道院	聖心の布教姉妹会鳴海修道院
聖園天使園	ドミニコ会聖ヨゼフ修道院	カトリック押切教会
栄冠幼稚園	聖パウロ女子修道会	金城学院高等学校
日本基督教団春日井教会	ヘンデル協会	井上幼稚園
日本基督教団熱田教会婦人会	日本基督教団豊田教会	

いのちの電話全国研修会協力寄付

日本財団 日本電信電話(株)東海支社

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間 5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 相馬信夫
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは… 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話
 事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1997年早春

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257

1997年2月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181 郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎ 052-971-4343 東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会